

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 6年 3月 15日

事業所名

児童発達支援事業所すずらん

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		時間を決めて共有スペースを活用し、活動の幅を広げるようにしています。	
	2	職員の配置数は適切である	○		配置数は確保しています。	・十分な支援を行うには職員が少なく思います。 ・正規職員の確保に努めます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○	職員会議等の記録を全職員が回覧し、共通理解が持てるようにしています。	定期的な面談の際に参画意識を高めていきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価を業務改善につなげ、その結果を示していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		施設内研修や他施設の見学など研修を行う機会を設けています。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		概ね6か月に1度保護者面談を行い支援計画を作成しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			状況把握は行っていますが、一層標準化されたツールとなるよう努めていきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		季節に関連した活動を取り入れたりしながら1週間ごとに活動内容を変えています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		利用時間に合わせてプログラムを設定しています。	長期休暇では設定されているが、休日は十分でない ので今後充実させます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		開始前に職員間で打合せをし、児童の状況把握や配慮点を含めた支援内容、役割分担を確認しています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	その日にできないものは翌日に振り返りを行っています。	振り返りなどを記録するボード等を設置して情報共有に努めます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		専用アプリで支援記録を入力し、各職員が閲覧可能な状態にしています。	
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に1回モニタリングを確実にを行い、状況次第で必要に応じて見直しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		児童発達支援管理責任者が窓口となり、各学校と連携しています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/	対象利用児童なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	/	/	対象利用児童なし	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じて児童発達支援管理責任者が窓口となり、専門機関と連携しています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		事業所としての相互交流の機会はありませんでしたが、個々の児童はそれぞれ所属する学校で交流を行っています。各学校との交流を含めた連携協議を継続していきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○		管理責任者及び児童発達支援管理責任者が参加しています。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎の際や、連絡ノート、電話、ショートメール等で保護者と連絡を取り合い、利用児童についての共通理解に努めています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時や面談などで丁寧な説明に心がけています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		専用の携帯電話を備え、時間外においても保護者の相談を随時受けられるようにしています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			親子会などの機会を捉え、保護者同士がより一層つながっていくような場の設定を工夫します。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		契約時や面談などで丁寧な説明に心がけています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		会報「すずらん通信」(A3版)を発行し情報の発信に努めています。	
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報に記載されている書類は鍵付きの書庫に保管しています。	
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		保護者に応じて、電話を掛けたり文書を作成したりメールを活用したりするなど配慮しています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		親子会や所外活動などで地域の施設や人材をより一層活用していきます。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			マニュアルや訓練状況を会誌等を活用し、周知に努めます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		定期的に利用児童と共に必要な訓練を行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		虐待防止委員会を設置するとともに、研修を行っています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○			
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		定期的に事例集を回覧し、未然防止に努めています。	

○ この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。